

第7回岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成25年12月20日（金）午後7時～午後10時

2 場所

岡谷市保健センター

3 出席者

委員 原豪志委員、林裕一委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森眞由美委員、林幸三委員、薩摩林忠美委員、沓掛貴芳委員、瀨一平委員、八幡義雄委員、原山智委員、森本健一委員、荒深重徳委員、古本吉倫委員、岩下貞保委員
（名簿順）

計15名（欠席者：小林啓助委員、武居崇委員、原史郎委員、田中沙里委員）

地質調査業者 ㈱長野技研

岡谷市・岡谷市教育委員会

草間吉幸教育委員長、古屋博康教育部長、河西稔建設水道部長、橋爪哲也教育担当参事、吉澤洋人教育総務課長、古川幸男危機管理室長、両角秀孝企画課主幹、三澤達也教育総務課主幹、高橋卓教育総務課主幹、清水亮教育総務課主査、小口和久教育総務課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後7時

2 議事

（事務局から会議の成立報告。続いて、委員長から本日の会議の傍聴について、前回同様、分科会については非公開とし、全体会のみを公開とする旨を委員に諮った結果、異議なく承認された。）

< 議事の内容 >

- (1) 諸連絡
- (2) 分科会
- (3) 全体会(分科会の報告)
- (4) その他

(1) 諸連絡

【委員長】

事務局から諸連絡をお願いします。

【事務局】

（本日の会議の進め方について、前回同様、各分科会に分かれて議論を行い、その後全体

会で各分科会の報告を行うことを確認。)

【委員長】

このことについて、質問や意見はありますか。

(なし)

それでは、各分科会に分かれて議論をお願いします。

(2) 分科会

(各分科会の会議録は別紙。)

(3) 全体会 (分科会の報告)

【委員長】

本日の分科会で出された意見等の報告をお願いいたします。

【事務局及びコーディネーター】

(各分科会で出された主な意見等の報告。)

<現地存続分科会>

- ・ 前回の分科会で出された現地存続のメリットについて確認した。
(自然環境の良さ、現地存続を望む声の多さ、地域のコミュニティを守ること等)
- ・ 続いて、現地存続の課題の整理を行った。
(安全性の確保をどのようにするか、安全性の確保にどのくらい費用がかかるか、工事中の学校運営をどうするか等)
- ・ 岡谷市の財政状況について共通認識をもつために、事務局から財政状況の説明を行い、意見交換を行った。
- ・ 市が現地存続を断念した理由は、いくら対策工事を行ったとしても、安全性を担保することが難しいとの判断によるもので、自分もそのように理解している。
- ・ 現地存続するための課題が見えてきたと思う。まず、対策工事が本当に施工できるのかどうかの問題。続いて、費用の問題。多額の費用がかかることについて、岡谷市民の理解が得られるかどうか。また、工事中の学校運営をどのようにするか等。

<移転分科会>

- ・ 初めに、前回の分科会で資料請求のあった「H32年以降の児童数が推定できる資料」と「イルフプラザ北側駐車場敷地の市有地部分と民有地部分が分かる資料」について事務局から説明し議論を行った。
- ・ 人口減少が見込まれる中で、子どもたちが良い教育を受けられるように、教育環境または教育そのものをどのように充実させていくかを今後考えていくことが大切だと思う。
- ・ 特色があり、魅力がある学校づくりをどのように進めていくかについての議論を深めていくことが重要だと思う。

- ・人口減少が見込まれる中で、まち全体を活性化させていくためには、将来的に学校の統廃合は避けられない。ただし、統廃合を一気に進めることは難しいため、ステップを踏みながら、合わせて、将来の理想的なまちづくりをどのようにしていくかを考えていくことが必要だと思う。
- ・駅南、イルフプラザ北側駐車場ともに、現在の利用状況やその土地の目的や役割、性格、また現在の岡谷小のメリット（自然環境等）を受けられるわけでは無いこと等を考えると、これらの場所に学校を移転することは難しいのではないかと思う。
- ・H52年（27年後）には、岡谷市の人口は約38,000人になり、児童数も約6割程度になると推定されている。そのような中で、岡谷市が今後どのようなまちになっていくのか、財政的な問題もあるし、子どもの教育の問題もある。建物の問題もさることながら、教育環境としての学校の立地も、教育を論じる上で大切だと思う。
- ・駅南とイルフプラザ北側駐車場は、いずれも岡谷市の活性化のために必要な土地であり、イルフプラザ駐車場は、毎日利用されており、また、駅南は一部民間に売却されており難しい面がある。これらの場所に学校が決まる要件があれば押していけるが、決めるには難しいだろうという話になった。従って、今後新たに候補地が出てこない限り、次回から跡地利用の問題についての議論を進めた方がいいのではないかと思う。

<統合・分散分科会>

- ・現状把握に多くの時間を費やした。その中で大きく次の2点の意見が出された。
 - 1点目は、統合を考えた時に、岡谷小学校の伝統と統合先の学校の伝統を受け継ぎながら、新しい学校をつくるという考え方でいくことが、保護者や地域の理解が得られるのではないか。そのような統合を考えるべきだと思う。
 - 2点目は、統合・分散を進めるうえでは、子どもたちの安全安心（通学路の整備や通学距離が遠くなる児童へのバス利用等）についても、いっしょに考えていかなければ、なかなか話は進まないのではないかと思う。
- ・次回に向けては、中学校への通学距離が分かる資料と岡谷小学校周辺の小学校の敷地面積や学校の配置が分かる資料をいただきたいとの話があった。
- ・通学路の安全確保は大事なことであり、今後議論していきたい。
- ・人口減少により、将来的には現在の6割程度の児童数になることを考えた時に、現在岡谷小は1学年2学級規模であるが、それが1学級規模になることは目に見えている。そうなった時に、子どもたちに良いサービスが施せるかどうか。学級担任の数、専科教員の数、講師の数は減る。子どもにとって本当に良い条件でサービスを施すことは難しい。統合という方向に向かうことが、ベストではないがベターではないか。単に岡谷小とどこかの学校を統合するというのではなく、将来的には岡谷市内の学校の統廃合を視野に入れていかなければいけないため、統合するにあたっては、今後のモデルになるような学校づくりが必要だと思う。ハード面よりも、ソフト面でどのような学校づくりを行

っていくかが大切だと思う。

【委員長】

各分科会から報告がありましたが、委員の皆さんから何かあればお願いします。

【委員】

移転分科会は、用地の買収についての検討を行ったのか。

【事務局】

岡谷市はコンパクトなまちのため、岡谷小から直線で2キロくらいの範囲に、神明小や田中小や小井川小が入ってくる。そのような中であって、最寄りの学校に移るとすることも案として考えるべきではないか。民地を買収すればよいという考え方もあるが、中心市街地の活性化に必要なイルフプラザ駐車場や、土地区画整理事業を行ってまでして生み出された駅南の土地を目的と違う学校用地として利用することについて、民有地を買収してまで学校用地とすることがいいのかを話し合い、それは難しいのではないかと話になった。

【委員】

それは市の都合だと思う。それでは分科会の意味がない。移転分科会は、移転しかないという前提でどうすればいいかを考えるべきだと思う。

【委員】

議論はいたしました。

【委員】

イルフプラザ北側駐車場であれば、この部分が民有地なので、学校を建築するにはこのくらい買収が必要になりますね、というような程度の議論はしてほしい。

【委員】

議論していないような言い方をされているが、議論はしております。

【委員】

市有地はここです、この土地は市街地の活性化に必要です、では議論が足りないのではないか。

【委員】

移転でも、現地存続でも、案を形にして皆でもう一度議論しないと意味がない。

【委員】

具体的にもっと時間をかけて検討するということか。

【委員】

膨大な時間をとって緻密にという話ではないが、移転先が無いと放棄するのではなくて、移転先が無いなら無い中で形にする方向にしないと分科会の意味がない。

【委員】

他に移転の候補地があれば検討していこうという話になっております。

【委員】

現実に移転の候補地なんて無いじゃないですか。

【委員】

お金をかけて買収するには、様々なプロセスが必要になる。成田公園という話も出た。イルフプラザ駐車場が無くなれば、イルフプラザ自体の存続や周辺の商業がどうなってしまいかという話もしている。今回のことは、用地を買収すれば問題解決というような話ではなく、トータルで考え、将来に向かって岡谷市全体の活性化のためにどうしたらよいかという議論が必要。もう1度くらい議論した後、統合・分散分科会に合流した方がいいのかなという感じがある。候補がいくつもあればいいが。

【委員】

移転分科会は、ここが一番という場所を選んで、どの程度の学校が可能なのかを示すことが移転分科会の進む方向ではないか。

【委員】

個々の検討内容を細かく示してほしいということですか。

【委員】

細かくではないが、議論した内容を聞きたい。

【委員長】

一般的に用地買収は相手がいることなので時間がかかる。道路や水路を付替えるとなると、広い範囲で影響が出るので地権者の了承が必要になる。そもそも今回の発端は、耐震補強をしなければならないという所から話が出ており、時間をかけられない。

【委員】

移転分科会は、岡谷小学校の移転に必要な13,500㎡を移転候補地に当てはめながら学校敷地となるかを検討した。いずれも面積が狭く、民有地を含めて地権者にどいてもらうことまで考えるならば、岡谷市としての今後の学校のあり方についての考えを固めない限りは、民有地の買収にまで話を踏み込むことはできない。人様の土地に勝手に絵を描くわけにはいかないし、地権者にどいてもらうには、それなりの方向性を持たないうちに話ができないと思う。

【委員】

可能性の話ならしてもいいのではないか。

【委員】

地権者がいることなので、それなりの理由を固める必要があると思う。

【委員】

現状だけを考えると、13,500㎡の空いている土地は無いので、そもそも移転を検討する余地は無い。移転分科会はどうしたら移転ができるのか、現地存続分科会はどうしたら現地存続ができるのか、をゴールに議論してほしい。

【委員】

議論しています。単に学校を移せばいいという話ではなく、将来のまちづくりを見据えた市全体の問題として捉えていかないといけない。イルフプラザに駐車場が無くなった場合の検証をもっと細かくやり、このような理由だから難しいということを示せば納得してくださるのか。

【委員】

別にいろいろな理由で私たちが言い包めてほしいと言っているわけではない。

【委員】

各分科会の会議録をもとに全体会で話し合っただけではいかがでしょうか。この分科会はこんなことも検討していないのか等と、各分科会を批判し合うようではいけないと思います。

【委員】

会議録はできるだけ早くお願いできますか。また、お互いの分科会を尊重するべきだと思う。

【委員】

別に他の分科会を批判するつもりはありません。移転分科会が移転について検討しないなら、誰も移転を検討する人がいなくなってしまう。

【委員】

例えば、いくら現地存続分科会がこうすれば存続できるという案を出しても、市が受け入れない限りは分科会の意味がない。

【委員】

それを言っただけでは話合う意味がない。

【委員】

市はあり方検討委員会の決定を尊重するのではなかったのか。

【委員】

最初から答えが出ているなら、市はあらゆる可能性を探るなどと言わずに、最初から分散しかないと言うべきだ。この検討委員会自体が茶番になってしまう。

【委員長】

用地買収はできるともできないとも言えない。買収するには道路の付け替えや機能移転が必要になる。

【委員】

買収はこのような問題があるからダメです、ではなくて、仮に地権者がどいてくれたら学校が成り立つのか成り立たないのか、スケジュール的にどのような問題があるか、移転が可能なのかどうなのか等を知りたい。用地買収はいろいろ大変だからタブーです、では話にならない。協力がもらえるかどうかは二の次ではないか。

【委員】

イルフプラザ駐車場の地権者にどいてもらうためには、岡谷小が耐震改修できないから下りてきます、では弱い。なぜイルフプラザ駐車場でなければいけないか、必然性が必要に

なる。単純に、学校を建てるのにこれだけ面積が足りないからどいてください、では他のどこの民有地でも言える。岡谷市全体として、この場所に学校を移す必要があるという裏付けやコンセプトが必要だと分科会の中で話し合った。

【委員】

単に学校を移す、移さない、民有地を買収する、しない、という話ではない。

【委員】

言いたいのは、その結果、移転は無いという話にもって行かれることは困るということ。跡地利用の話なんていうのは、どうでもよいこと。

【委員】

移転分科会は跡地利用のことも議論することになっています。

【委員】

一応入ってはいるが、跡地利用なんてことはどうでもよいこと。

【委員】

それは委員さんが思っていることですよね。

【委員】

最終的には跡地利用のことも必要になるが、現地存続か移転かの2つが重要であって、その2つの議論を尽くさないと分科会の意味がない。移転なら移転の形を、現地存続なら現地存続の形を1つ作る。完璧な提案は無理だが、お互い案を作り合って、この場で比較検討すべきだと思う。

【委員】

今はその過程であるので、今、ああだこうだ言ってもまとまらない。

【委員】

これからの進め方ですが、分科会は終わりにして、会議録を持ち合っ全体会で話し合いませんか。

【委員長】

全体会で3案を総合的に比較検討することになっている。

【委員】

現地存続分科会なら30億と7年かければできる、移転分科会ならこの土地の人がどいてくれて10億と2年かければできるみたいな案をそれぞれ持ち寄って比べるんですよね。案がないと比べられない。

【委員長】

絶対という案がないので、現実性がないという評価されるかもしれない。公共事業全般に言えるが、第三者に協力を求める事業というものは難しい。

【委員】

難しいことはみんな分かっている。

【委員】

学区内に土地が無いので、移転分科会は土地買収しかない。

【委員長】

土地を取得できるとは誰も言えない。所有者がだめと言えられない。

【委員】

これまでの市の説明会では、現地存続は危険、お金がかかる、移転は土地が無い、あとは分散しかない、という話だった。その可能性をひっくり返す検討をこの場でやっている。危険な場所に学校を建てるために、どうやって安全にして、いくらお金をかけてやるかということを議論している。

【委員長】

リスクがあることを追及して検討を進めていくかという話になる。そこまでやるかという議論になる。

【委員】

リスクを入れて検討してほしい。

【委員長】

このようなことには、このようなリスクがありますよ、ということをもとめればよいわけですよ。

【委員】

はい。

【委員】

次回はどうしますか。

【委員長】

各分科会の進捗状況によるが、統合・分散分科会はまだ検討する必要がある。

【事務局】

次回もまだ分科会で検討していきたいと考えている。

【委員長】

次回はもう一度分科会を行い、できるだけ早く全体会に移っていきたい。

【事務局】

それぞれの分科会の進捗状況もあるので、次回は分科会でいきたいと思います。

【委員長】

いろいろな意見がありますので、今後も検討していきたい。

他にありますか。

(なし)

(4) その他

【委員長】

次回の日程について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

次回第8回あり方検討委員会については、1月の下旬を予定しております。
日時が決まり次第通知いたしますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

委員の皆さんで何かありますか。

(なし)

以上をもちまして、本日の検討委員会を終了します。

閉会 午後10時